

廣雅釋詁



特別
~13
4367



貴
八
4367



痿陰隱逸傳自叙



童謠曰如做出事來做得

大則個穿寧樂盧舍那佛

屁眼則個愉快哉言也可

以俾慷慨之士中靈勃起

若夫女媧煉五色之石而

補三百餘度等莖漢高揮

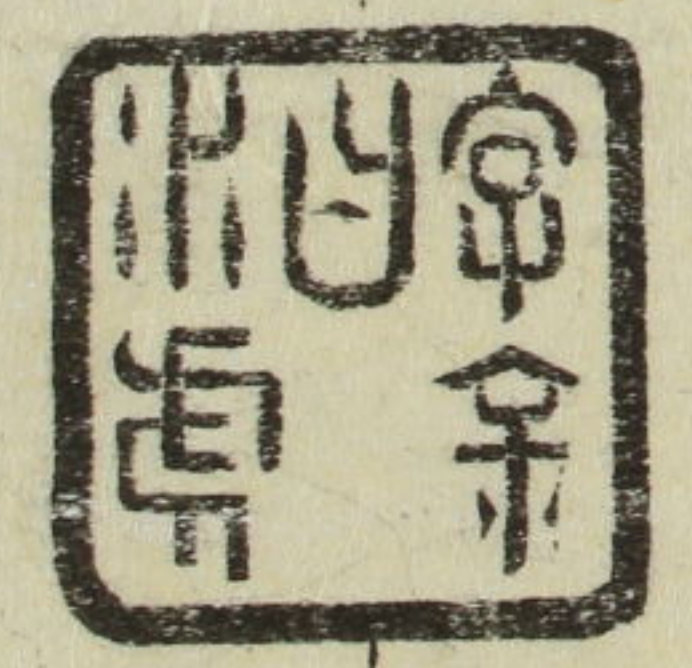
三尺之勢而破四百數年

小戶可謂做得大矣然時

有先後勢有大小故其所

爲或異而其所志則一也。
 嗚呼吾勢之逸群。世無容
 之。溪婦數說如激戶菽焉。
 易曰括囊无咎无譽與其
 起而無所施不如痿之愈

故痿云爾。明和五年春三
 月風來山人題悟道軒。



いひ玉蓋といふ。肉具と^{ちうル}呼。中^{ちうル}具と^{あつ}呼。俗^{そくこ}話^わ不^ふ雞^{きい}巴^いといひ。紅毛^{かうんこ}其^{その}口^{くち}留^{りよる}。小男^{せうなん}なる人^{ひと}でふけ物^{もの}の^{しん}ぎ^んハ。其^{ういら}形状^{けいじやう}大^{おほ}なるあや。小^{せう}形^{けい}の^{しん}ぎ^ん。長^{ちやう}き^んの^{しん}ぎ^ん短^{たん}き^んあり。或^{ある}ハ^{まろく}急^{いさ}或^{ある}ハ^{ひうく}扁^{へん}又^{また}急^{いさ}豊^{とよ}下^{した}以^もち^もち^も白^{しろ}紫^{むらさ}の^{しん}ぎ^んは^{しん}ぎ^ん陰^{いん}蓋^{がい}の^{しん}ぎ^ん

本^{ほん}魔^ま羅^らの^{しん}ぎ^んは^{しん}ぎ^んふ^ふま^まう^うら^らの^{しん}ぎ^んが^{しん}ぎ^んま^まら^らあ^あれ^れハ^{しん}ぎ^ん及^及あ^あや。う^うら^らの^{しん}ぎ^んは^{しん}ぎ^んし^しの^{しん}ぎ^んけ^けあ^あや。う^うら^らの^{しん}ぎ^んハ^{しん}ぎ^ん裁^{さい}あ^ああり。上^{うへ}及^及あ^あや。其^{その}さ^さは^{しん}ぎ^ん同^{どう}ト^とか^から^らぎ^ぎる^るて^てふ^ふ人^{ひと}の^{しん}ぎ^ん面^{めん}の^{しん}ぎ^ん異^いなる^{なる}あ^あれ^れ。ふ^ふい^いし^しの^{しん}ぎ^んあ^あや。其^{その}業^{ごう}あ^あや^やて^てふ^ふ亦^{また}一^{いつ}般^{ぱん}なる^{なる}。其^{その}光^{くわう}

舞島陽文武周公孔孟のまらから後
 其の詩書禮樂の教をこめを釈考
 賢虚の火がさるるまらつてハ上天下唯
 我獨尊と金匱の勢方履と光らせ。
ちんや ふる うきよ
 子子振神代ハまららのよがたも只
すかき
 変るるごとくまらるる人々の世ハ

かなしとらてまらら のハ自福くまらて川上
さげらの衆師ををト先赤表のむるまら
 と。日本武尊の劔つるぎる悉くあさちら
 玉ひしより。ハ劍磨けんまらる身くさを
 とて。くさあきの宝劍たつげと早て末世の
 せむすらの戒いさめとん。或將門園を赤ハ

ごまうらうをとおやせ。純友四玉のつくと
子弄うまをまかし。貞任家任武衡まげ家衡
かけどり、頼義家家の長御おながみの志を
され。和より交しを承九年といひ。
後うしろ接つぎと後之年と云。保元平治豆の
昔むかしを燃もて己おのれがへのおて己おのれがまをかり。

安家の者あやのものハ玉精たませいの比ひとみえ陰かげも
林はやしとまをせし。範頼のりたけ義経よしかねの勢せう骨ほね小
あつた浮うききん。阿なまの久ひさなる於朝おのの
物ものカ多おほ政子まさこの陰かげ戸との孫まごかかると討う討うが
林はやし中ちゆう不ふ陷ちゆうて終しゆう之し代だいとぬ心こころ通とほぐ
はふ。北條九代きたじょうくだいの大勢おほせうふにくわんと生なまト

たるも元就の悔高時の下痛とある。
 彩田是利の勢競も極淺川小割勢
 一々も。後碓碯^{たいご}と皇孫^{みまろ}兼輝^{かねてる}此
 志^{こころ}すも無く。南北^{みなみきた}あはれの勢とある
 是利十五代の長陰^{ながかげ}益信永武智の
 早勢共不^{とも}癒^なてより。太閤の大勢自煥

朝鮮人の善門^{ぜんもん}を穿^あて進むとある
 勢ハ癒^なることも速^{すみ}るも其^{その}方^{かた}倭^{やまと}臣^{おみ}
 志^{こころ}すも其^{その}方^{かた}今^{いま}不^{とも}癒^なるも其^{その}方^{かた}知^しる事^{こと}あるに
 ずら^す救^{すけ}ふる途^{みち}ありとある。其^{その}方^{かた}の魔^ま羅^ら
 あり。其^{その}方^{かた}勢^{せい}とあるも天^{あま}歌^{うた}夷^{ひら}の毛^け
 体^{てい}たか^か生^な育^{よく}毎^{まい}骨^{ほね}起^たる^る骨^{ほね}小^こく^く白^{しろ}

陰莖のてうすけいより薄うすくも何なんらん。又物をものをを意いひ
 からしてから儼げん々々と。皮かわかつかつききめめししらん。
 りかた時ときをを着かべべたたれれてて起おめめのの時とき。
 事こと何なんもも不ふ脈みやくくくハハ強つよきき心こころとと金きん錢せんのの高たかく
 熱あつたたててとと火か焰えんののもも〜。目めをを〜
 見み。耳みみおおくく〜とと聞き也なりのの廣ひろささもも入いる

迷まよつつらん。脈みやくののせせほほききとと宮みや筋ぢん屈くつととせせず。
 変化へんげニニままずずりり形かたちききとと恰あたもも龍りゆうのの如ごとし。
 浮世うきよののどどもも死しななららずず屍がのの衆しゆももせん。昔むかしは
 必かならず死しななららずずとと思おもふふ。昔むかしもものの病びやうもも〜
 せせ〜〜自みづからら中ちゆう樂らく毅ぎのの勢せい骨こつ比ひす。
 子里こりのの馬ま太たい鼓ことと持もつつ〜もも昔むかしもも伯はく樂らく

等輩を帷幕の内詰めらし。交換
 して千里のふかあらし。赤松子不
 托して藤久古今物歩の張良が玉
 蓋をかり。と度口説く客らねぐせの
 陰蝨を厭がり。陰毛を判て藤久
 友房郷の布のてねり。その立ととら

ら。堪あらしといふも。藤久ととらを
 びとねり。尺蠖の屋むハ信らぬを。
 知る者のまぬがえ能。藤久らぬを。恨
 むる者ハ命とねり易く濁す者ハ
 飲とねり易し。世小更す。とらと
 交とのハ多く。教ととらゆらねり。

世之所謂之孔と墨之矯陰隱逸
也

其之立中へ復た之を執り立
之を每侍る不始之とせしむる

志道軒門人

悟道軒徳

矯陰隱逸傳終

矯陰隱逸傳跋

矯陰先生既陰澆志

其志山歎曰衆人皆

起吾獨矯不義而開

且穴於象如浮雲吾見

跋

其勢如矢於足湯至
 鮠癘乎可謂大陰參
 惜其其癘如鼓而其
 不起如木也嗚呼勢
 骨之強齒稜之高不

逢一再與穴公法挫一
 手弄已之其起也寧
 癘之臨之時豈大參
 唐之唐人曰孔子不逢
 時予亦癘陰先生之云

友

三十九

皇和明和戊子春二月

後學陳勃姑書于勢

真齋



72

